

事業活動報告(案)

令和4年度

自 令和 4年 4月 1日  
至 令和 5年 3月 31日

公益社団法人京都市児童館学童連盟

京都市南区東九条東山王町27番地  
元山王小学校北校舎2階

## 概 説

令和4年度も前半は新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）拡大の影響から児童館・学童保育所ではさまざまな取組が中止を余儀なくされ、施設の閉館も新型コロナの第7波の流行時には多くの児童館・学童保育所が休館・休所となりました。しかし、子どもたちの健やかな育ちを守り、子育て家庭を支える役割や使命を踏まえ、各施設では工夫を凝らしながらさまざまな事業の展開を図ってきました。こうした状況の中、連盟では感染予防対策に取り組みながら、研修事業も対面で実施し、新型コロナの影響にも配慮し、取組みを着実に進めました。

一方、コロナ下でありながらも学童クラブの登録者児童数は令和2年度より14,000名を超え、学童クラブのニーズは依然として高いものがあります。100名を超える規模の登録児童数がある児童館・学童保育所も珍しくなくなる一方で、実施場所、並びに従事職員の確保と資質の向上が大きな課題となっています。昨年はコロナ禍で大きく制限を受けた研修活動について、感染対策を徹底し、対面で行うことができました。従事職員の確保については各施設、法人も懸命の努力が続いていますが、連盟でもマッチングセンターの広報や就職フェアへの参画等を行いました。また、1月より連盟直営の児童館において「4週8休制」の試行を始めました。より魅力ある職場づくりのための試みであり、試行で得られた成果と課題を処遇施設委員会で共有します。

事業推進委員会では「With コロナにおける実践の交流」と題して、3年間の新型コロナウイルス感染状況下での実践を振り返る取組として、全施設を対象とした実践アンケート調査と、その調査結果を基に実践を共有する実践交流会を開催しました。実践交流会では、アンケート調査を分析し読み取れる傾向を報告するとともに、各施設の実践をパネルディスカッション形式で紹介しながら、コロナ下で児童館・学童保育所が果たしてきた役割を再確認し、今後の在り方を考える機会としました。

市民の利便性の向上と職員の事務負担の軽減を図り、もって活動の充実を図ることを目的としたICT事業を令和5年度の学童クラブ入会手続きが始まる1月より本格導入を図りました。学童クラブの入会手続きを、100を超える施設が一斉にICT化する試みは恐らく我が国で初めての取組です。本格運用に至るまで数回にわたってシステム説明会を開催し、導入を推進・支援しました。初めての試みでもあり、システムの不具合も発生していますが、各施設からの報告や、意見・感想を集約しながら当初の目的を達成するべくシステムの充実を図ってまいります。

令和4年度は徐々に緩和されたとは言え、まだコロナ禍の強い影響を受けた1年でしたが、連盟は上記のほかにも「障害のある児童の統合育成事業」、「ファミリーサポート事業」、「予算対策」「各種イベント」と多くの事業を積極的に展開しました。いずれの取組も連盟というスケールを活かした事業展開でした。令和5年度には「こども家庭庁」の創設や「こども基本法」の施行という新たな枠組みの中で、児童館・学童保育所もよりその役割が期待されています。以下、令和4年度の各分野の事業を振り返ります。

# I 健全育成・子育て支援事業

## 1 各委員会活動

### (1)事業推進委員会

#### 1 令和4年度 事業目標

本委員会は、「京都市児童館活動指針」（以下「活動指針」という）の浸透を図り、児童館・学童保育所が「活動指針」に基づいた活動を推進することを支援し、児童館・学童クラブ事業の全市的発展・推進を図ることを目的として、令和3年度の活動を踏まえながら、引き続き「活動指針」への理解・浸透を深める活動を実施します。さらに、コロナ禍における児童館・学童クラブ事業の現状に沿った活動を行います。

#### 2 令和4年度 活動報告

事業目標に基づき、11月に全7ブロックにおいて「活動指針」研究会を開催しました。今年度は「参画」を全体テーマに掲げ、子どもや子どもたちの健全育成に携わる地域の大人たちの主体的な活動等に着目しながら、「思春期児童への取組」「自由来館児童（小学生）への取組」「乳幼児とその保護者への取組」「学童クラブ事業」「地域福祉促進活動」の5つのテーマに沿って、各ブロックからの事例報告を基に活動指針を振り返りました。

また、今年度は「With コロナにおける実践の交流」と題して、3年間の新型コロナウイルス感染状況下での実践を振り返る取組として、全施設を対象とした実践アンケート調査と、その調査結果を基に実践を共有する実践交流会を実施しました。

「活動指針」研究会では、「参画」という大きな柱を設定することで「さまざまな角度から話合いの切り口ができた。」「大切な視点を改めて感じる事ができた。」という参加者の声が多くありました。

「With コロナにおける実践の交流」では、アンケート調査を分析し読み取れる傾向を報告するとともに、各施設の実践をパネルディスカッション形式で紹介しながら、コロナ下で児童館・学童保育所が果たしてきた役割を再確認し、今後のあり方を考える機会としました。

#### 3 令和4年度 活動実績

月	活動内容 / 指針に関わる動き	委員会 / 会議
4月	年間の活動について	第1回正副委員長会議 (4/15)
5月	年間の活動計画決定	第1回委員会 (5/17)
6月	活動指針研究会について With コロナにおける実践の交流について	第1回ワーキンググループ (6/7) 第2回委員会 (6/15)
7月	活動指針研究会について With コロナにおける実践アンケート調査について	第2回ワーキンググループ (7/8) 第3回委員会 (7/12)

8月	With コロナにおける実践アンケート調査 (8/2~19)	第3回ワーキンググループ (8/31)
9月	活動指針研究会に向けて With コロナにおける実践アンケート調査報告	各ブロック活動指針研究会事前打合せ会議 (9/12、14、15、26、27、29) 第4回ワーキンググループ (9/26) 第4回委員会 (9/28)
10月		各ブロック活動指針研究会事前打合せ会議 (10/3) 第5回ワーキンググループ (10/27)
11月	活動指針研究会 (11/10、11、14、15、17、24、28)	
12月	活動指針研究会の振り返り With コロナにおける実践交流会について	第5回委員会 (12/6) 第6回ワーキンググループ (12/8)
1月		第7回ワーキンググループ (1/17)
2月	With コロナにおける実践交流会 (2/7)	
3月	令和4年度の活動を振り返って 令和5年度活動計画について	第6回委員会 (3/14) 活動指針研究会報告集の発行 With コロナにおける実践の交流報告集の発行

## (2) 処遇・施設委員会

### 1 令和4年度 事業目標

「京都市はぐくみプラン」ならびに、「活動指針」を推進する立場から職員処遇、施設・設備のあり方を検討しながら、令和4年度の京都市予算の要望項目の検討を行っていきます。

### 2 令和4年度 活動報告

#### ・第1回委員会 (5月20日)

今年度の活動を「職員処遇に関わる予算要望の検討」と「4週8休制の実施に向けた課題等の検討」を中心的な活動とすることを確認しました。各ブロックに対して処遇施設に関わる意見集約を行うことを確認しました。

#### ・第2回委員会 (6月13日)

処遇施設改善と4週8休制導入の課題について議論しました。処遇施設改善については、いわゆる「統一給与表」の抜本的改善を求めると同時に、産休・育休等取得者が年度途中からの復帰する場合、現在の給与積算の考え方では不足が生じる場合があること、1クラス運営の学童クラブ職員配置基準の見直しを求めることで一致しました。施設改善については分室及び施設外クラスの設置にあたっては、学校等との「共用」ではなく「専有」を求めることで一致しました。

4週8休制導入について、昨年度から議論を重ねた導入することの意義について確認し、学童クラブの規模に応じたモデル出勤シフトを作成し、課題検討を行いました。

・第3回委員会（7月4日）

委員会での議論と各ブロックから集約された意見を基に令和5年度の京都市予算に対する委員会としての要望項目を整理しました。4週8休制導入については連盟運営館において準備が整い次第、試行することを確認しました。

・第4回委員会（3月15日）

京都市からの来年度予算に関わる連盟への回答を共有すると共に、1月より連盟運営館において試行実施している4週8休制について現状の共有を行いました。

3 令和4年度 活動報告

月	会議等（日）	活 動 内 容	
		京都市予算に関わる内容	4週8休制導入に関わる内容
5月	第1回（6日） 正副委員長会議  第1回（20日） 委員会	-令和3年度より引継事項の確認 -今年度の活動と基本方針について -予算対策特別委員会について -	-令和3年度より引継事項の確認 -基本的考え方の共有 -導入に向けて検討する具体的課題の共有
6月	第2回（13日） 委員会	-来年度京都市予算に対する要望項目の検討	-検討課題について
7月	第3回（4日） 委員会	-各ブロックからの意見集約 -要望書の内容決定について	-前回のふりかえり -各ブロックからの意見集約結果の共有と検討
1月			-連盟8館における試行開始
3月	第4回（15日） 委員会	-京都市予算に対する要望書と回答 -今年度のふりかえり -来年度の委員会について	-試行の現状についての報告

(3) 予算対策特別委員会

1 令和4年度 事業目標

予算対策特別委員会は、連盟理事会の諮問機関として、理事会が京都市に働きかけるための要望書を起案し、京都市の児童館・学童クラブ事業を安定させるための制度・政策の向上と予算対策活動の推進を行います。

各専門委員会の意見・要望等を横断的に聴取・集約することで実情に合った要望をすくい上げると同時に、京都市児童館活動指針の十分な推進を旨として予算要望が策定されるよう委員会活動を行います。

## 2 令和4年度 活動報告

### 1 第1回委員会（7月7日）

- ・年間の活動スケジュールを決定しました。

### 2 第2回委員会（7月21日）

- ・各専門委員会からの要望事項を集約しました。
- ・令和5年度京都市予算に対する要望書(案)の検討を行いました。

### 3 第61回理事会において要望書(案)を提示し、承認を受けました。（9月22日）

（以下要望骨子）

#### (1) 最重点要望

- ①活動指針に基づく児童館事業の円滑な実施のために必要な事業費の確保
- ②多様化する放課後対策の中にあつて、一元化児童館における学童クラブ事業の京都市の位置づけの堅持
- ③委託料の人件費積算の根拠となっている「児童館・学童保育所職員給料表」「児童館館長給料表」について、人件費積算の基本として堅持
- ④高い離職率を改善するための職員処遇の抜本的改善
- ⑤学童クラブ1クラス運営の児童館における正規職員4名体制の復活

#### (2) 重点要望

- ①「京都市児童福祉法に基づく事業及び施設の人員、設備及び運営の基準等に関する条例」に基づき、児童館運営に必要な事業費の確保と基準の堅持
- ②一元化児童館130館の枠にとらわれない積極的かつ柔軟な対応
- ③分室及び施設外クラスの施設環境の整備及び副館長の職員の配置に必要な措置
- ④やんちゃフェスタの復活
- ⑤超過勤務手当の積算について全施設が年間を通じて不足なく支給できる措置
- ⑥事業費加算の増額
- ⑦職員確保と定着の観点から、住宅手当・扶養手当の創設
- ⑧人材確保のために、行政を退職後に採用された施設長の給与格付けの引き上げ、館長手当の増額に見合う予算配置
- ⑨新型コロナウイルス感染防止のための情報提供ならびに、予算の確保、物品の支給等の各施設に対する支援

#### (3) 要望

- ①障害のある児童の登録人数が増加する中での介助ボランティアに対する謝金単価引上げと交通費の創設
- ②経年劣化の危険性がある既存の非常通報システムのあり方の見直し
- ③個別対応が必要な子どものために必要なスペースを確保するための施設増改築の検討
- ④地域の子育て支援・健全育成の拠点として多様な市民が来館されることを踏まえたトイレの整備(様式化・バリアフリー化を含む)

### 4 「令和5年度京都市予算に対する要望書」京都市提出（10月3日）

### 5 要望に対する回答（令和5年2月10日）

・令和5年度京都市児童館・学童クラブ事業関係予算案についての説明が、連盟三役に対してなされました。

○令和5年度予算概要

児童館・学童クラブ事業等 予算額 【4、444、090千円】

令和4年度予算額 【4、576、913千円】

## 6 第3回 委員会（3月15日）

- ・「令和5年度京都市予算に対する要望書」に対する京都市回答の報告
- ・令和5年度予算特別委員会活動予定案の決定

市民の要望に応え、児童の健やかな育成を図るため、事業費の確保と児童館・学童保育所職員処遇の改善要望については翌年度以降も引き続き求めていかなければなりません。ここ数年の市の回答を踏まえると、要望の仕方についてはより効果的な方法を検討していく必要があることを確認しました。

(4) 研修委員会「2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項を参照。

(5) 統合育成委員会「3 障害のある児童の統合育成事業」の項を参照。

(6) 広報委員会「4 広報活動」の項を参照。

(7) やんちゃフェスタ 2022 実行委員会「5 京都やんちゃフェスタ 2022 の開催」の項を参照。

## 2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修

### 1 令和4年度 事業目標

「京都市児童館活動指針」に基づき、児童館・学童保育所職員の資質向上を目的に、京都市から受託する児童館・学童保育所職員研修事業を実施します。

### 2 令和4年度 活動報告

研修受講機会を確保するため、令和4年度京都市児童館・学童保育所職員研修会についても、新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、研修計画に則った科目を実施しました。研修形態は研修効果を考慮して対面による集合研修を実施しました。

（一財）児童健全育成推進財団の主催する研修については、対面研修またはオンライン研修として実施されました。派遣人数については、再募集や対象者が所属する施設への連絡等を行った結果、各施設の御協力により、全ての研修会でほぼ予定通りの人数を派遣することができました。

- (1) 委員会 (年間5回: 4月、6月、9月、11月、2月)
- ・ 行政研修、派遣研修の内容や予定の確認と、実施した研修の報告。
  - ・ 全7ブロックで実施するブロック企画研修の立案、企画、事後報告。
- (2) 研修会
- ① 行政研修
  - ② (一財) 児童健全育成推進財団への派遣研修 (次表を参照。)

①行政研修 ※ ( ) は受講者数のうち、外部受講者の人数を示す

実施日	科目	講師 ※敬称略	受講者数※	
4月27日	健全育成論	國重晴彦	京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援統括監	70人 (18人)
4月27日	児童館論Ⅰ	山崎真由美	京都市西賀茂児童館 館長	53人 (8人)
4月28日	京都市の児童館・ 学童クラブ事業	田中由紀子	京都市川岡東児童館 館長	66人 (15人)
4月28日	児童館論Ⅱ	平井麻由美	城南児童館 館長	52人 (3人)
5月9日	救急法 「救命講習Ⅲ」	消防署 救命係	中京消防署	13人 (2人)
5月10日			東山消防署	9人 (2人)
5月11日			山科消防署	5人 (1人)
5月12日			下京消防署	10人 (1人)
実施日	科目	講師 ※敬称略	受講者数	
5月16日			右京消防署	7人 (2人)
5月19日			伏見消防署	15人 (6人)
5月26日	安全指導・ 安全管理	中津巧一朗	大阪城南女子短期大学 教授	84人 (20人)
6月29日	ゲーム・運動遊び (1B)	大熊晋	伏見青少年活動センター 所長	35人
6月14日	科学遊び (2B)	倉橋克彦	つくるまなぶ京都町家科学館	35人
6月20日	音楽表現活動 (3B)	柴田恵美	洛和会京都音楽療法 研究センター	35人
6月2日	造形表現活動 (4B)	南博幸	劇団風の子関西	26人
7月1日	身体表現活動 (5B)	奥田笑子	株式会社オーゼスポーツ	22人
6月22日	ゲーム・運動遊び (6B)	中村彰利	京都YMCA	31人
6月10日	児童文化財 活用法 (7B)	蓮岡修	絵本・童話・木のおもちゃ きんだあらんど	26人
6月27日	配慮を要する 児童の対応	清水里美	平安女学院大学 教授	96人 (29人)
7月14日	児童文化財 活用法2	上坊信貴	すたらぼ 代表	58人
6月3日	中堅派遣研修 事前説明会			39人
7月20日	中堅派遣研修	前川修	京都市児童館学童連盟	40人

	事前研修会 (オリエンテーション)		研修委員会 委員長	
10月21日	中堅派遣研修 事後報告会 (研修者)			21人
10月28日	中堅派遣研修 事後報告会 (施設長)			17人
10月12日	集団援助技術 講義・演習	渡邊慶一	京都文教短期大学 教授	58人 (4人)
10月13日				59人 (3人)
10月31日	児童の発達理論 (乳幼児期)	大谷多加志	京都光華女子大学 准教授	101人 (39人)
10月26日	障害のある児童 の統合育成	加藤勉	京都市教育委員会 主席社会教育主事	120人 (64人)
2月10日	中堅研修 「チームマネジメント研究」	東信史	まちしごと総合研究所 代表	42人
2月17日				
2月21日	人権研修	吉永省三	千里金蘭大学 名誉教授	61人 (15人)
2月28日	上級研修	國重晴彦	京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援統括監	25人
3月6日	施設長研修	依田秀任	児童健全育成推進財団 業務執行理事	101人

※ブロック企画研修（「児童館・学童クラブ研究Ⅰ」）

ブロック	テーマ	講師 ※敬称略	実施日	受講者数
1	怪我や熱中症時の対応と各館所 での室内・室外遊びについて		2月15日	25人
2	アンガーマネジメント ～日々の保育を振り返って	小林由枝 (ぶらすの時間こえた)	11月30日	18人
3	Zoom を活用した児童館事業 の模索	溝口晋太郎 (たかつかさ児童館 館長)	12月5日	20人
4	児童館での気になる 児童と関わり	大久保千恵 (京都橘大学 准教授)	12月5日	23人
5	子どもと保護者への支援 の仕方について	毛利豊和 (京都市教育委員会 専門主事)	10月17日	21人
6	どう伝えればいいのか？ 子どもたちの性教育	藤原朋子 (京都府助産師協会)	1月23日	18人
7	災害時の避難行動と 安全な誘導	杉左近昭太 (京都市西京区役所 洛西支部地域力推進 室 総務・防災担当係長)	11月7日	23人

②（一財）児童健全育成推進財団への派遣研修

研修名	実施日	会場	受講者
児童厚生員等基礎研修会 (東京会場)	7月5日～8日	LINK FOREST (東京都多摩市)	宮崎翔梧 (南大内)
			水沢菜摘美 (吉祥院)
			竹村元汰 (辰巳)
			左京花菜 (神川)
			國府萌子 (新林)
児童厚生員等基礎研修会 (大阪会場)	9月6日～9日	ホテルマイステイズ 新大阪コンファレンス	西田碧 (四ノ宮) 下陳駿人 (うたの・ひこばえ)

		センター（大阪市）	金田彩愛（住吉） 兵頭敬子（大原野） 横井志帆（新林）
中堅児童厚生員等研修会	10月19日 ～21日	新梅田研修センター （大阪市）	黄瀬満知愛（楽只） 坂真友子（梅津北） 古田敏恵（住吉） 安楽一（南浜） 川野大輝（久我の社）
全国児童厚生員等指導者 養成研修会	12月7日 ～9日	Lstay&grow 南砂町 （東京都江東区）	吉良隼悟（向島南） 白本業晶（北白川） 下田元子（山ノ本）
全国子どもの健全育成 リーダー養成セミナー	1月29日	オンライン	平井麻由美（城南） 木戸玲子（修徳） 野田雅子（福西） 古田敏恵（住吉） 渡邊洋子（岩倉南） 満田博子（西京極）
児童厚生1級 特別セミナー	2月25日	オンライン	阿部佐織（明德）

### 3 障害のある児童の統合育成事業

#### 1 令和4年度 事業目標

- ・ノーマライゼーションの理念とインクルージョンの考えに基づく学童クラブ運営と統合育成事業の推進を図る。
- ・障害・発達特性や配慮の必要な児童を支える関係機関との連携及び協力体制の確立を目指す。

#### 2 令和4年度 活動報告

- ・発達障害及びその他の多様な障害に関する研修計画を立て、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の対策を講じながら実施しました。コロナ禍であったが、予定通りの研修を全て対面で実施することができました。
- ・関係諸機関との連携並びに介助者派遣事業については、具体的な方策を基に継続して推進することができました。

#### 【活動内容】

(1) 委員会は年6回開催5月・6月・9月・11月・1月・3月

- ・研修会の案内及び実施報告、ケース検討会報告、各館への巡回報告、統合育成担当者巡回報告、各ブロック情報交換及び討議

(2) 研修会の開催

##### ①職員研修会

「配慮を要する児童の対応」、「障害のある児童の統合育成」

\* 「2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項、参照

②介助者研修会（4回開催）

「障害のある児童の統合育成」

テーマ：「遊びは発達の基礎 ～障害のある子どもと関わるうえで大切にしたいこと～」

講師：京都市立東総合支援学校 校長 森田 香織 氏

・南会場 6月30日（木）ひとまち交流館京都 参加者：78名

・北会場 9月26日（月）京都アスニー 参加者：45名

テーマ：「遊びの活動について考える」

講師：京都市児童館学童連盟事務局 主任厚生員（統合育成担当）岡崎 達也

・南会場 11月17日（木）ひとまち交流館京都 参加者：57名

・北会場 12月 8日（木）京都アスニー 参加者：31名

(3) ケース検討会議の開催（7回）…全体会1回・各児童館：2回×3館（計6回）

・全体会は6月28日（火）に開催

テーマ：児童館でのケース検討会議の進め方について

講師：京都教育大学 教授 田爪 宏二 氏

・ケース検討会議は 9月20日（火） 12月 6日（火） 壬生児童館

10月11日（火） 1月17日（火） 大原野児童館

11月16日（火） 2月14日（火） 大塚児童館

(4) 「発達障害実践セミナー」（4回）

「特別講座」 6月9日（木）京都アスニー

テーマ：「保護者支援と地域連携」

講師：京都市児童館学童連盟 主任厚生員（統合育成担当） 岡崎 達也

参加者：77名

「連続講座 1回目」 7月15日（金）京都アスニー

「連続講座 2回目」 9月16日（金）京都アスニー

テーマ：「ティーチャーズトレーニング」

講師：佛教大学教授 免田 賢 氏

参加者：28名

「実践交流会」 2月14日（火）京都教育文化センター

テーマ：「環境整備と行動支援」

講師：（有）あーと・ねっと作業療法士 灘 裕介 氏

参加者：44名

(5) 介助者派遣事業について

・大学、専門学校、障害児親の会、ボランティアサークル等へのポスター・チラシの  
掲示及び配架・配布依頼の実施

・新聞、広報誌、機関誌への募集記事の掲載

・毎週金曜日の登録事務の実施

## 4 広報活動

### 1 令和4年度 事業目標

- ・広報物については、読み手にとって親しみを持たれる誌面を目指し、常に誌面刷新の意識をもって活動を展開します。
- ・京都市児童館学童連盟の広報誌「キッズステーション」については、公益性を意識し、市民に対し児童館・学童保育所の活動をPRすることを目的に発行します。よりたくさんの市民の皆さんに児童館・学童保育所を知っていただき、児童館の魅力が伝わる内容を掲載します。
- ・「れんめい ニュースレター」は、職員情報誌として、職員研修会の報告、連盟の各委員会、理事会等の動きを正確・迅速に伝えることを目的に発行を行います。
- ・児童館・学童保育所の活動と当連盟の事業をPRするため、ホームページの管理・更新を行います。

### 2 令和4年度 活動報告

(1) 委員会の開催(7回) …① 4月25日 ② 5月18日 ③ 7月 7日  
④ 9月 1日 ⑤11月22日 ⑥ 3月 2日

(2) 広報誌「キッズステーション」の発行

①発行回数：年2回(4月・10月発行)4号・5号

作成については、5号・6号

②発行部数：1回につき、約14,000部

③配付先：各児童館・学童保育所、育成推進課、福祉・教育関係機関及び団体、各区子どもはぐくみ室、市内19箇所の図書館、報道関係、京都学・歴彩館、連盟理事・監事等(約90箇所)

〔主な記事〕

5号(10月)：「人が集まり、行き交う場所 つながるじどうかん♪」  
「あそびボックス」

6号(4月)：「踊る!遊ぶ!集う!児童館 学童保育所まつり♪」

(3) 職員情報誌「れんめいニュースレター」の発行

①発行回数：年12回(毎月10日発行)310号～321号

②発行方法：発行を知らせる全館所メールとアルファオフィスへの掲示、関係機関へは郵送

③配付先：各児童館・学童保育所及び育成推進課、関係機関、連盟理事監事等(16箇所)

(4) ホームページ「京都市の児童館」の活用状況

①児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業をPRすることを目的とします。

②当連盟の事業に関する情報についても随時更新を行いました。

## 5 とびだせ!やんちゃんねるの開催

### 1 令和4年度 事業目標

広く市民に向け児童館・学童保育所の魅力を発信、PRしていきます。令和4年度については、京都やんちフェスタのキャッチフレーズである、「梅小路に児童館がやってきた」を継承し、WEBを活用して児童館をアピールできるような取組とし、昨年度同様に子どもが「見て楽しみ」「参加して楽しむ」を体験できるような企画とします。

## 2 令和4年度 活動報告

・「とびだせ！やんちゃんねる2022」実施内容

日 時 : 令和4年12月1日 午前10時～12月28日 午後5時

参加館所 : 80館所

アクセス総数:〈特設サイト〉6,558 アクセス

〈YouTube〉15,319 アクセス

作品総数 : 379 作品

インターネットを活用し、広く市民の皆様には児童館・学童保育所の魅力を発信するとともに、自宅で児童館の取組を体験してもらうことを目的とし開催しました。京都市の児童館・学童保育所のさまざまな遊び等を動画で「鑑賞」するコンテンツと、SNS上で等に投稿することで、お互いの遊ぶ様子をWEB上で共有しながら遊びを盛り上げ、その様子を様々な方に広くPRすることを目的とした「あそびにチャレンジウィーク」の企画を開催しました。

「あそびにチャレンジウィーク」実施内容

実施期間 : 12月12日～12月23日

投稿作品数: 169 作品

## 6 子育て支援のための普及事業・京都市はぐくみ憲章の啓発活動

### 1 令和4年度 事業目標

公益社団法人として、広く市民・府民に子育て支援の場や機会を設け、子育て家庭に対し親子が共に楽しめるひとときを提供するためにスタートした事業です。連盟としては、さまざまなイベントへの参加を含め、連盟の果たす役割をアピールする機会の増加に努めます。また、京都市が定めた「子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都市はぐくみ憲章)」の普及啓発を図ります。

### 2 令和4年度 活動報告

①「子どもたちの願いを乗せて」 —京都市交通局・京都市産業観光局との連携事業—

市営交通の利用の促進と、児童館・学童クラブの取組をアピールするため、「京の七夕」の一環として開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

②「親子でにこにこ 笑顔いっぱい」～『子どもを共に育む京都市民憲章』をひろめましょう!～

日 時 : 令和4年11月5日 11:00～15:00

場 所 : 京都市呉竹文化センター (京都市伏見区)

公演内容 : 「京都市はぐくみ憲章ステージ」

「うたおう!おどろう!たのしいクラシック♪UNITET+ショー」

「子どもを共に育む京都市民憲章(京都市はぐくみ憲章)」の普及啓発のためのイベントとして、昨年度に続いて午前の部・午後の部の二回公演を実施しました。今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策として募集人数を会場収容人数の50%としました。463名の親子が参加し、親子の絆を深めました。来賓として京都市長を迎え、市の子育て支援施策に対する取組みなどについて挨拶をいただきました。「京都市はぐくみ憲章ステージ」では、クッキーズが子どもたちに人気の歌やダンスで会場を盛り上げ、京都市はぐくみ憲章のテーマソングを合唱し、憲章の理念と実践について理解を深めました。

#### 「第11回 京都子ども将棋交流大会」

日 時・会場：〔本選1日目〕令和5年2月25日(土) 10時～16時

各児童館

\*オンライン将棋サイト「将棋倶楽部24」を活用。

〔本選2日目〕令和5年3月4日(土) 12時30分～17時

くろ谷金戒光明寺 清和殿

\*対面開催

洛和会ヘルスケアシステム主催、日本将棋連盟京都府支部連合会と京都市児童館学童連盟の共催で初のオンライン開催と対面開催の2日間形式で開催しました。1日目を日本将棋連盟の公式インターネット将棋対局サイト『将棋倶楽部24』でのオンラインでの開催、2日目は1日目を勝ち上がったベスト16の子どもたちが、くろ谷金戒光明寺に集結しました。

本選1日目は、各施設の予選を勝ち抜いた子どもたち総勢113名が低学年の部(64名)、高学年の部(49名)に分かれ、それぞれベスト16(2日目の出場権)をかけトーナメント方式で対局を行い、熱戦を繰り広げました。

2日目は、くろ谷金戒光明寺の厳かな雰囲気の中で、1日目を勝ち上がった16名が熱い対局を繰り広げ、低学年の優勝者には、「京都市長杯」、高学年の優勝者には、「洛和会丸太町病院・洛和会音羽病院杯」が授与されました。

## 7 読書好きの子どもになるための本の虫プロジェクト

### 1 令和4年度 事業目標

故小野英一氏からの遺贈寄附金を活用し、読書好きな子どもの育成を目的として、児童館・学童保育所における図書購入等の整備予算の助成及び、「第4回本の虫プロジェクト ポップコンクール」の開催等の事業を行います。

### 2 令和4年度 活動報告

児童館・学童保育所に対して、図書等整備費を配分し、その整備を図るとともに、児童館を利用する児童が本に親しむことで読書好きの子どもを育成することを目標として、「第4回 本の虫プロジェクト ポップコンクール」を実施しました。

当コンクールの開催においては、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した上で、児童館・学童保育所職員を対象としてポップ作成指導を行う講習会を開催するとともに、児童館・学童保育所や各家庭でポップ作成ができるよう、作成テキストを配布しました。作品募集の結果、783点の応募を得ることができました。

応募のあったポップのうち優秀な作品33点に対する表彰と作品展示を、令和4年11月26日に市役所前ベスト御池御幸町広場において行いました。

本事業は故小野氏のご意向に沿って遺贈寄付金のすべてを活用したので本年度をもって終結とします。

## 8 大学と連携した学習支援事業

### 1 令和4年度 事業目標

本事業は、「子どもの学力・学習等の状況」、「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼し、これらの課題に対して、地域の子どもたちへの学習支援に取り組むものとし、大学生ボランティアの力を生かし、保護者以外の大人との関わるの機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもの孤立化の解消を図ります。

### 2 令和4年度 活動報告

#### (1) 事業の実施体制

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学生：子どもへの学習支援、相談支援

京都市：事業への助言、技術的指導等の支援

児童館学童連盟：事業を実施する児童館のサポート

#### (2) 実績

令和4年度は数十館で学習支援事業を実施しました。援助を行った学生は、施設近隣の大学や専門学校、学校の学生や学童の卒所生などで、ボランティアとして参画しました。

## 9 学童クラブ利用料算定事業

### 1 令和4年度 事業目標

京都市の学童クラブ利用料金は、登録者が利用する内容に応じた応益負担制となっています。連盟事務局では委託を受けた児童館・学童保育所の利用料算定事務を、公平・適正かつ速やかに実施することを目標に業務を進めます。

### 2 令和4年度 活動報告

学童クラブの登録児童数は従来から増加傾向にあったが、「子ども子育て支援新制度」開始以降、利用対象児童が小学校6年生までに拡大されたことを受けて、利用者ニーズは拡大を続け、下記に示すように、一昨年度から登録児童数は14,000人を超えています。

そうした中で、施設における利用料金徴収事務負担は増え続けていますが、連盟事務局では加盟団体における事務が滞ることのないよう、算定事業のシステムの整備を行い、迅速に利用料金の決定通知を施設に届けられるよう努めました。

#### 学童クラブ登録児童における利用料金算定取扱件数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
児童数(人)	9,264	10,839	11,682	12,266	13,524	13,894	14,112	14,307	14,517
世帯数(件)	8,569	9,585	10,252	10,592	11,714	11,974	12,066	12,283	12,294

## 10 京都市家庭ごみ有料指定袋無償配布事業

### 1 令和4年度 事業目標

連盟は京都市から新生児出生世帯に対する配布窓口事務を受託しています。

市内全児童館でスムーズな配布事業を遂行するとともに、新生児を持つ世帯に対し、児童館が実施している乳幼児対象事業及びに子育て支援の機能について、周知広報することを目標とします。

### 2 令和4年度 活動報告

#### (1) 配布対象

京都市内の新生児を養育する世帯で、京都市保健福祉センターから届けられる「出産お祝いレター」の受取世帯を対象者とします。

#### (2) 配布内容

出産お祝いレターに同梱されている「家庭ごみ有料指定袋無料引換券(新生児減免用)」を児童館に持参された保護者に対して、指定袋(燃やすごみ用)「30リットル袋40枚」、又は「20リットル袋60枚」の引換配布を行いました。その際、保護者に対し、児童館の乳幼児対象プログラムを記載したPR用のチラシ等を配布し、児童館の利用を促すためのPRを行いました。

#### (3) 引換実績

児童館では毎月末に集計を行い事務局に報告、事務局では全館集計の結果を環境政策局資源循環推進課へ報告を行いました。令和4年度の総引換え件数は1,376件となりました。

新型コロナウイルス感染が続く中、乳幼児親子に児童館の存在を知らせる機会となりました。

## 11 無料職業紹介事業

### 1 令和4年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保を進めることを目的に、平成31年1月に厚生労働大臣の許可を受け、「無料職業紹介 児童館人材マッチングセンター」を開設し、4年が経過したなかで、登録会員数、マッチング数も徐々に増えています。その中で、求人者(人材を求める運営団体)のニーズをきめ細かくリサーチし、求人者と求職者の双方に満足いくマッチングを実現し、連盟加盟各団体の児童館・学童保育所における人材確保を通じてその事業実施支援に努めていきます。

### 2 令和4年度 活動報告

令和元年度には、児童館人材マッチングセンターのPRを推進するため、会員児童館の協力を得て、実際に児童館で働く職員が児童館職員として働くなかで感じた「やりがい」に関する声を掲載し、児童館職員という職業の魅力を知ってもらえるパンフレットを作成したところであり、今年度も引き続き来所者や広報に活用しています。

また、就職フェア(京都市保育連盟主催)に2回参加し、希望する会員の求人情報を持参し、来場者にPRを行いました。

マッチングセンター紹介事業実績(期間:令和4年4月1日~令和5年3月31日)

(1) 求職登録	正職員	7名
	臨時的任用職員	4名
(2) 求人登録	正職員	14件
	臨時的任用職員	65件
(3) 採用件数	正職員	1名
	臨時的任用職員	1名

## 12 大学生等職業体験事業

### 1 令和4年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保については困難な状況が続いています。その中で、京都芸術大学、京都橘大学、京都市、連盟の4者が連携協定を締結し、児童館において職業体験事業を行うことで、学生ならではの発想や行動力を生かした児童の健全育成活動の活性化や、大学生の知識や技術の向上、人材の育成を図り、児童館で働きたいといった意欲を持つ学生を今まで以上に増やすことを目指しています。

### 2 令和4年度 活動報告

令和4年度は、京都芸術大学からの8名の参加があり、4箇所の児童館で職業体験事業を行いました。参加した学生には、①地域における児童館の役割について ②児童館職員の役割について を事前のガイダンスで説明し、児童館職員として働くことの魅力を伝えながら進めていきました。実際の体験活動の際には、子どもたちとの関わりや事業体験だけではなく、職員会議への参加等、児童館で働くことを意識できる内容を

取り入れました。また、各大学との連携を密にすることで学生への情報提供などを広く、具体的に伝えることにつながり、学生に児童館の職業体験事業に参加するきっかけを作ることができました。

#### 職業体験スケジュール（6日間の日程で行う）

項 目	内 容
事前説明会	・事業ガイダンス  ・研修「児童館・放課後児童クラブの基本機能と役割について」
施設での職業体験	8月22日～11月29日（内5日間）

### 13 フードドライブ事業

#### 1 令和4年度 事業目標

食品廃棄（フードロス）の削減に向けた取組として、また子どもの貧困問題に対するアプローチとしても連盟が取り組むにふさわしい事業として位置付け、令和4年度から全児童館・学童保育所で実施します。また、子どもたちがこの取組を自らにかかわる問題として考えていける取組の方法を検討します。

#### 2 令和4年度 活動報告

令和4年度は、全館所を対象にブロックごとに実施し、全体で3トンを超える物資が集まりました。また、子どもたちがフードロスについて興味をもち、自らにかかわる問題として考えていくきっかけになりました。

#### 実施日・回収量

ブロック	実施期間	回収量（k g）
1ブロック	9月12～17日	605.4
2ブロック	7月11～16日	387.2
3ブロック	10月17～22日	683.7
4ブロック	11月14～19日	405.2
5ブロック	6月13～18日	331.8
6ブロック	12月12～17日	688.1
7ブロック	1月16～21日	259.9
合計		3361.3

## 14 京都市ファミリーサポート事業

### 1 令和4年度 事業目標

- (1) 多様化する子育て支援のニーズに対応するため、提供会員の登録増加を推進します。
- (2) 提供会員の資質向上のためレベルアップ講習を拡充します。
- (3) 会員が登録する際に視聴する動画ツールを新しく制作します。
- (4) 閲覧者の目線に立った情報の提供ができるようホームページの見直しを行います。

### 2 令和4年度 活動報告

#### (1) 会員の登録数と活動内容

##### ①会員数の推移

会員種別	令和3年度(人)	令和4年度(人)	増減(人)
依頼会員	5,163	4,954	△209
提供会員	915	914	△1
両方会員	158	152	△6
合計	6,236	6,020	△216

##### ②活動数と活動内容

###### 活動数の推移

	令和3年度	令和4年度	増減
活動総数	6,624	8,124	1,500

###### 活動内容の推移

活動内容の上位			
1.保育施設の迎え及び帰宅後の援助	1,722	2,246	524 増
2.子どもの習い事等の援助	1,144	1,922	778 増
3 保育施設の送り及び登園前の援助	821	1,742	921 増

#### (2) レベルアップ講習会の開催について

##### ①事故防止のための救命講習の開催

「普通救命講習Ⅲ」については受講者を増やすため、昨年度より開催回数を4回から6回へ増やし、未受講者へ受講を促しました。

##### ②資質向上のための講習会の開催

「食生活と栄養」、「障害のある子どもへの対応」を開催しました。

(3) 入会説明動画作成について

本年度中の完成には至りませんでした。令和5年度の早期にDVDに代えユーチューブ動画として作成します。

(4) ホームページのリニューアルについて

活動に必要な様式を会員がダウンロードできるようにするなど、利便性を高める改修を行いました。また、会員が登録情報をオンラインで更新できるよう、専用フォームを作成するなど、ホームページの活用を行いました。

(5) 啓発活動イベントについて

事業を啓発することを目的としたイベントを開催しました。

イベント名「ファミリーサポート DE つながろう」

日 時：令和4年10月22日（土）13時～15時

会 場：Zest 御池 御幸町広場

参加人数：大人 79名 子ども 100名

内 容：○ 工作コーナー フラワーアレンジメント  
○ ハロウィンフォトスポット  
○ 大型絵本「はらべこあおむし」読み聞かせ

(6) 会議・登録会・講習会・交流会等実績

①会議

会 議	内 容	時間数	回数
地域リーダー会議	会報誌の企画等	2時間	12回
支部長会議	事業計画・実行・統括	2時間	2回

②登録会・講習会

登録会・講習会	内 容	時間数	回数
登録会(本部3回・支部45回)	依頼会員に登録するための登録会	1時間	48回
講習会(本部2回・支部3回)	提供会員に登録するための講習会	6時間30分	5回
レベルアップ講習(実技)	普通救命講習III	3時間	6回
レベルアップ講習(講義)	食生活と栄養	1時間30分	1回
レベルアップ講習(講義)	障害のある子どもへの対応	1時間30分	1回

## II 施設運営

### 1 児童館の運営

#### 1 令和4年度 事業目標

連盟が京都市から指定管理者として受託運営する8箇所の児童館は、地域の関係団体とも連携を密にし、地域における子育て支援の拠点として、市民の期待に応えられる施設運営に取り組んでいきます。

## 2 令和4年度 活動報告

各児童館の令和4年度の事業目標と成果は下表のとおりです。

		児童館事業	学童クラブ事業
壬生児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、事業を継続していきます。</li> <li>○遊びを通して、子どもたちの健全育成と社会性の向上を目指します。</li> <li>○子育て世帯の居場所をつくり、乳幼児クラブの充実と子育て支援講座（予約制）を継続します。</li> <li>○気になる家庭への支援と地域や関係諸機関との連携を深めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、事業を継続していきます。</li> <li>○基本的な生活習慣を身につけ、遊びや集団生活を通して協調性や自主性を養う環境づくりに努めます。</li> <li>○集団活動の中で、一人ひとりの活躍の場を設けながら、自尊感情をはぐくみます。</li> <li>○保護者と信頼関係を築き、学校や地域と連携を図りながら、地域で子育てを支える機運を高めます。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登録制の乳幼児クラブを利用の保護者から、「保護者自身も楽しみ、保護者同士の仲をより深めることができました。」とのお声をいただきました。これからも児童館だからこそできる遊びや雰囲気を大切にしながら、親子で気軽に通っていただけ、子育て世代の支えとなれるよう、支援の方法や、取組の内容について工夫しながら進めていきたいと思えます。</li> <li>○子育て支援講座では、昨年のニーズ調査の結果を踏まえ、リトミックや英語などを取り入れた内容で実施しました。どの講座もたくさんの利用につながり、保護者の質問から子育て相談につながることもありました。</li> <li>○気になる家庭については職員間で情報共有を図りながら安心して利用してもらえることを心がけて支援しました。そうした中で、「ほっこりらんど」への参加や専門の先生に気軽に会える取組等につながることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○縦割りでの班構成とし、3年生を中心としたグループで活動を取り組む中で3年生の主体的な取組につながりました。</li> <li>○秋祭り「わくわく子どもマーケット2022」を開催し、班ごとでお店を企画することで子どもたちの主体的な活動を行う機会としました。また、当日はお店でのやり取りを子ども同士だけではなく保護者、運営協力会、地域の方々にも来ていただき、交流の機会とすることができました。コロナ禍で個別的な活動になりがちだった状況から地域の方々と共に過ごし、触れ合う機会を持つことも少しずつできてきました。</li> </ul>
七条第三児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近にある児童館として気軽に立寄り、子育て相談や仲間づくりができるよう支援します。</li> <li>○子どもが自主的に取り組める機会を作り、考える力を伸ばします。</li> <li>○思春期児童のニーズに合わせた居場所を確立します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣や社会性を身につけられるように段階をふまえ支援します。</li> <li>○子ども達が主体となれるような取組をふやし生活場面に応じた行動力をはぐくみます。</li> <li>○縦割りを意識し、3年生以上のリーダーシップを育てます。</li> </ul>

	<p style="text-align: center;">成 果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児クラブやあそびの広場等の子育て支援の取組には多くの参加者があり、子育ての仲間づくりにつなげることができました。特に「ママノート」という日々の子育て記録を楽しむサークルは母親同士で子育ての会話を楽しむ機会となりました。</li> <li>○子育て相談の日として「七三ちょこちゃん」が定着し、他の子育て支援の活動には来られない利用者も来られる取組となりました。</li> <li>○学童クラブ登録児童と行事をわけることで、自由来館児童がやりたいことを聞く機会を作りながらその声を受けて行事を進めることができました。</li> <li>○中高生世代の来館時に声をかけて、やってみたいことを聞き取り、中高生タイム時にカラオケや映画鑑賞等、意見を取り入れた取組を行うことができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年ごとに昼食やおやつ時間を区切ることでその年齢に応じたルールやマナーを伝え、身に付けていくことができました。特に1年生はランドセルのしまい方等ロッカーの荷物整理について4月のうちに丁寧に伝えることで集団生活をスムーズに始めることにつなげました。</li> <li>○子どもたちから出てきたこんなことをやってみたいという意見を大切にして、紙飛行機大会、オニム大会、ポケモンをさがせ等といった計画にないあそびを開催し、子どもたち自身で企画・運営をしながら取り組みました。</li> <li>○3年生には3年生会議での話し合い、一人ひとりの目標を立てる中で、学童クラブのリーダーとしての意識作りにつなげていきました。その中で、終わりの会の当番活動や外遊びの道具の片付け等、さまざまな生活場面で進んで行動できる姿をみることができました。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">今 熊 野 児 童 館</p>	<p style="text-align: center;">目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな遊びや活動を通して、子ども一人ひとりの個性を尊重しながら、心と体の健やかな育ちを援助します。</li> <li>○子どもの意見を尊重し、生きる力を育て、自立の基礎を培えるよう支援します。</li> <li>○子育て家庭の交流を促進し、子育ての孤立化への予防を行い、福祉課題等には速やかに専門機関との連携を図るための日常的なネットワークの強化を目指します。</li> <li>○地域との連携を図り、子どもと地域住民との多様な交流を促進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりの子どもの状況に応じた「生活力」の獲得に向けた支援を行います。</li> <li>○子どもの発達段階や固有の生活条件を考慮し「遊び」を通して情緒の安定を図り、健やかに育つことができるよう支援します。</li> <li>○保護者の就労等も含めた生活に配慮しながら、「保護者としての役割」を継続的に支援します。</li> </ul>

	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年に続き新型コロナウイルスの影響により、規模を縮小した活動となることもあったが、小学生を対象としたクラブ活動や行事などでは子ども同士が関わり合い思いやりを持って取り組めるよう支援していくことができました。</li> <li>○子育て家庭においては、孤立感や育児不安などを感じている家庭にも話しやすい雰囲気づくりに努め、東山区全体で行っている子育て支援の取組につなげることができました。</li> <li>○ここ数年間、地域の方と子どもたちが大勢でふれあうことができない状況だったが、今年は地域に出向いたり、近隣の高校の学生を乳幼児クラブに招いたりすることもでき、民生委員や地域女性会、ボランティアの方々、シニア卓球の方々とも交流することができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染拡大の影響により、感染対策や制限を行いながらもできる範囲で班活動を行いました。班の中でゲーム大会や出し物といった遊びを行うことで、異年齢の友達関係や社交性、協調性を育む機会となり、年下の子に対する思いやりの気持ちやリーダーシップを発揮する場面にもつながりました。</li> <li>○年度末には、ICTの活用を推進するために保護者への周知やICTでの登録申請を行い、徐々にICTへの移行を進めることができた。</li> </ul>
	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域に根ざし、地域に親しまれ、地域とともにある児童館を目指します。</li> <li>○地域の各種団体と連携し、情報を共有しながら、地域の子育て支援に貢献します。</li> <li>○利用者のニーズを把握し、利用者寄り添った活動を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異年齢集団を活かした活動を通し、児童が主体的に活動できるよう援助します。</li> <li>○児童や保護者にとって安心できる居場所となるように、生活の場を確立します。</li> <li>○児童や保護者との信頼関係を築き、それぞれの家庭の状況に合わせた支援を行います。</li> </ul>
<p>四ノ宮児童館</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児クラブや子育てパワーアップ講座、子育て相談等、それぞれのニーズに合わせて利用していただく機会を作ることができました。</li> <li>○遊びなどのクラブ活動では子どもたちが興味のあることを取り上げ、活動の幅を広げることができました。</li> <li>○中高生世代向けの勉強会では、テスト対策を行う等、内容の充実に努めました。</li> <li>○地域との取組は新型コロナウイルスの影響でほとんどが中止となりました。そんな中で2月に行われた地域のイベントでソーランの発表を行うことができ、子どもたちにとってたくさんの人たちの前で発表をし、地域の方々と交流する機会となりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自分で考え、自分で決めて行動できるように考える時間や大人が決めつけない声掛けをすることで、子どもが主体的に活動する姿が増えました。</li> <li>○異年齢集団での活動を進める中で、高学年児童はリーダーとして見本・手本となる行動を心がけるようになり、低学年児童はその姿をお手本として、行動する姿がみられるようになりました。</li> <li>○手洗い、うがい、消毒、マスク着用等、感染症対策を丁寧に行う姿が見られ、自分自身の健康を守る意識が身につきました。</li> <li>○保護者からの個別の相談は優先して対応し、家庭の状況を知り、保護者の思いを受け止めることで子どもや保護者との関係構築に努めました。また、小学校や関係機関と連携して支援を継続しました。</li> </ul>

	<p>目標</p>	<p>○利用者からの多種多様なニーズに応えられる多機能性を生かし、地域全体で子どもを育てていくための中核的役割を果たします。</p> <p>○地域に寄添い、地域の拠点となり、子どもの最善の利益を優先した心身の育成を目指します。</p>	<p>○学童クラブを「安心できる居場所・拠り所」として確立していきます。</p> <p>○異年齢集団としての連帯感を深め、互いの違いを認め、尊重し合える関係を築きます。</p> <p>○個々の状況に応じた支援のもと、自主性を高め、自立に育てる力を育みます。</p> <p>○家庭や関係機関と連携し、保護者が安心して子育てできるよう支援します。</p>
<p>梅津北児童館</p>	<p>成果</p>	<p>○子育て家庭にとって保護者同士のつながりが生まれ、地域の「拠り所」となるよう、「乳幼児クラブ」や「広場活動」「季節行事」等を実施しました。特に「広場活動」では、児童館が「居場所」として認識いただけるようプログラムの充実を図ったことで、参加者が増え保護者同士のつながりも生まれました。</p> <p>○学校や地域との連携事業を再開し実施したことにより、児童館活動の基本である遊びと福祉の両輪を感じてもらえる機会となりました。</p> <p>○児童館事業の実施において、子どもがやりたいことや自分の思いを出せる場所となることに注力したことで、さまざまな取組へ意欲的に参加することにつながりました。</p>	<p>○職員間の共通理解や保護者・小学校との情報交換を密にし、情報共有を図りながら個別の状況に応じた支援を行ったことで、子どもの心身の安定につながりました。</p> <p>○保護者参加の事業を徐々に再開し保護者の仲間づくりを促す機会を増やしました。</p> <p>○館外活動や縦割りを意識した班活動、学年別グループ等における活動、中・高学年の生活を意識した活動等さまざまな集団活動を取り入れることにより、自主性や自己肯定感が生まれ、社会性の養成につながりました。</p> <p>○地域住民や地域の各種関係機関といった幅広い年齢層の大人たちとの地域行事やクラブ活動等において関わりが生まれる中で、社会性が生まれ、見守られ慈しまれている実感を得ることができ、地域への愛着の基礎が培われました。</p>
<p>西京極西児童館</p>	<p>目標</p>	<p>○来館者にとって居心地のよい場所となるように、一人ひとりのニーズの把握に努めます。</p> <p>○職員の個性を生かした計画、立案をします。</p> <p>○地域や関係機関との連携を促進し、子育て支援の輪を広げます。</p>	<p>○生活の場として居心地のよい環境作りを進めます。</p> <p>○異年齢やクラスをいかした集団活動を取り入れ、社会性を養います。</p> <p>○学童クラブ修了後の放課後の生活を見据えた生活支援を行います。</p> <p>○子どもについての情報共有を図りながら、保護者との信頼関係を築いていきます。</p>

	成果	<p>○新型コロナウイルスへの対応が変化する中で昨年は中止になっていたイベントや取組を実施することができました。また、地域のイベントや会議に足を運び、地域の関係団体との連携強化に努めました。</p> <p>○乳幼児クラブ等の子育て支援の取組や自由に来館できることについて、感染対策を伝えながら安心して利用できることをアピールするよう努めました。コロナ前のようにたくさんの方が気軽に利用していただくことは容易ではありませんが、少しずつ利用しやすい児童館のイメージが浸透していくよう、更に力を入れたいと思います。</p>	<p>○手洗い消毒の徹底とマスク着用等子どもたち自身で感染対策を行うことが身につけてきました。</p> <p>○学童クラブでの集団生活をより主体的に過ごせるように、3年生会議や高学年会議を行い、学童クラブの生活について考える時間を持ちました。3年生や高学年が学童クラブの中心となって、取組の提案・実行、職員の手伝い等を自主的に行うようになりました。</p> <p>○親子参加型の取組を実施し、これまでイベントが中止になり、親子参加の機会が少なかった中で、親子で楽しむ機会や学童クラブでの保護者同士のつながりを作る機会となりました。</p>
	目標	<p>○遊びを通して子どもたちの健全な育成と社会性の向上、自立心を養います。</p> <p>○地域の各種団体と連携し、子育て家庭と地域の方々との交流を図りながら、子育て支援の輪を広げていきます。</p> <p>○中高生世代の居場所作りにも力を入れていきます。</p>	<p>○子どもたちのおかれている状況を把握し、保護者・学校・地域と連携しながら、社会性を養い、基本的な生活習慣を確立します。</p> <p>○集団生活の中で自立心・責任感を育成し、協調性を養います。</p>
南浜児童館	成果	<p>○中高生クラブについては、毎月開催することで継続した利用につながりました。</p> <p>○子育て支援の取組では、乳幼児を連れていく場所がないというコロナ禍の中での声を聞いており、できる範囲で乳幼児クラブや行事を開催し、親子で利用できる身近な場所として取組を進めました。また、コロナ禍の中で本の貸し出しを始め、楽しみにしている幼児さんの話などがあり、今後も利用が進むように利用者への周知を図りたいと思います。</p> <p>○地域との連携事業として「みなみはまパーク」を開催し、地域の方との交流を図る機会となりました。</p>	<p>○例年以上に、保護者・学校との連携は密に行った。地域とは、新型コロナウイルス感染症拡大により、行事を通じ学童クラブ登録児童と地域住民との交流を促すことができなかった。</p> <p>○マスク着用やおやつの黙食等感染症対策について子どもたちで意識して取り組むことができました。</p> <p>○一泊キャンプ等の夏のおたのしみ行事が難しい中で、子どもたちの体験する機会をどのように確保するか職員で話し合いを重ね、代替の行事を開催しました。</p> <p>○集団生活の中で上級生が下級生のお世話をする等、目標である「集団生活の中で自立心・責任感を育成し協調性を養う。」につなげることができました。</p>

横大路児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て支援事業の充実を図ります。</li> <li>○伸び伸びと活動させる中にも規律を重視します。</li> <li>○各種地域団体との連携を密にします。</li> <li>○しもよこっ子開催団体との連携を強化します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学童クラブのルールを守ることで学びを身につけます。</li> <li>○規律のある生活習慣を身につけます。</li> <li>○手洗い、うがい等、新型コロナウイルスへの予防対策を徹底します。</li> <li>○登下館の際の安全指導を徹底し、子どもたち自身の安全意識を高めます。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児クラブも登録制を制限しながら、密にならないように配慮して活動をしました。特に人気のあるマミーズヨガ等は今年度から通常の定員 10 名にしました。</li> <li>○一寸ぼうしの広場等の事業を通じて、地域の子育て支援活動に活動場所を提供し、地域の事業に職員を派遣することで地域との連携を図ってまいりました。</li> <li>○広場活動では一人ひとりに寄り添い、子育て相談を受けながら、職員間で情報共有を図り施設として関わり続けることで、乳幼児保護者の居場所の一つとなることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年も常にソーシャルディスタンスを意識し、手洗い、消毒の指導を徹底して行いました。</li> <li>○遊びやクラブ活動を通して、友だちとのかかわり方、集団生活でのルールやマナーを知り、協調性や社会性を養う機会につながりました。</li> <li>○生活習慣を意識して取り組むことで、遊びや宿題をする時間を子どもたちで意識して放課後の時間を過ごすことにつながりました。</li> <li>○帰りの会の後に読書タイムを設ける事で、絵本や児童書を読む子どもたちが増えました。</li> </ul>

## 2 つどいの広場運営事業

京都市から京都市子育て支援活動いきいきセンター(つどいの広場)の運営を受託して実施する事業です。連盟が運営する「のこちゃん広場」が立地する洛西竹の里地区は少子化が進行し、特に0歳～3歳までの未就園児親子が、自然に親子同士で交流し、仲間作りをする機会が少ない状況にあります。その中で、子育て親子の孤立を防ぐことが趣旨の一つであるつどいの広場の運営に当たって、以下の目標を掲げて事業を実施します。

### 1 令和4年度 事業目標

- (1) 地域の組織と緊密な連携を取りながら運営を進め、子育て親子と地域住民が交流を促進できるイベントを継続的に実施します。
- (2) 支援が必要な子ども・家庭について専門機関との連携を密にし、解決の糸口や対応の方法を探ります。
- (3) 利用者が頻繁に立ち寄り、子育ての悩みや相談について専門知識を持つアドバイザーへ気軽に相談できる態勢づくりを行います。

### 2 令和4年度 活動報告

つどいの広場事業では、令和2年度から刊行してきた広報紙「おうちじかんは思い出じかん」を、令和4年度も継続して発行するとともに、Instagramを活用した情報の発信を行い、家庭内で親子が孤立感を持つことなく穏やかに過ごせるような情報提供を行いました。また、電話や電子メール、InstagramのDM等による子育て相談を実施しました。

利用者に対しては、新型コロナウイルス感染症予防対策を盛り込んだ「利用のしおり」を配布し、安心して利用していただくために利用人数を制限した完全予約制を採るなどの対策を講じました。また、昨年度来コロナ対策として、室内の消毒、使用後のおもちゃの消毒を徹底すると共に、室内の換気を徹底しました。

活動としましては、子育て親子のふれ合いの場として「簡単にできる手作りグッズ」等のプログラムを充実させるほか、地域からの参加者も受け入れるヨガ教室を行い、幅広い世代が子育て家庭と知り合うきっかけを作りました。

3月には前年度中止した10周年イベントの代わりとして「#のこちゃんじかんもおもいでじかん」と題したヒーローショーを申込制で実施し、屋外の暖かい日差しの中たくさんの親子と楽しい時間を過ごしました。

また、職員の外部研修(オンライン開催等)に積極的に参加し、市内や全国の広場のスタッフが集まる研修・会議に出席することで、コロナ禍における子育て支援に関する知見を深めるよう努めました。

洛西地域の子育て支援施設が参集して実施する会議やイベントについては、予約制で開催された他、スタンプラリーのポイントとして参画するなどし、各機関との連携を意識した事業展開を図りました。

### Ⅲ 法人管理

#### 1 会員

会員数	令和4年4月時点	54会員
新規加入		0件
退会		0件
令和5年3月末会員数		54会員

#### 2 総会・理事会

令和4年度（令和4年4月から令和5年3月）の総会・理事会の開催経過は次のとおりです。

##### (1) 総会

会議の通算回数、開催日及び場所	出席者数等	議 題
第13回定時総会 (令和3年度決算総会) 令和4年5月31日 京都JAビル	会員社員総数54名 出席会員社員数40名 (うち書面による出席者21名)	○承認及び決議事項 (1)令和3年度事業活動報告の承認 (2)令和3年度収支決算報告の承認 (3)連盟会費の改定(案)の承認 (4)役員選任の議決
第14回臨時総会 令和4年7月29日 キャンパスプラザ京都	会員社員総数54名 出席会員社員数47名 (うち書面による出席者30名)	○承認事項 (1)連盟会費改正(ICT会費創設)(案)の承認
第15回臨時総会 (令和4年度予算総会) 令和4年3月28日 京都JAビル	会員社員総数54名 出席会員社員数46名 (うち書面による出席者33名)	○決議事項 (1)令和5年度事業計画(案)の議決 (2)令和5年度当初予算(案)の議決 (3)定款の一部変更の議決

##### (2) 理事会

会議の通算回数、開催日及び場所	出席者数等	議題
第59回 理事会 令和4年5月16日 京都JAビル	理事総数 23名 定足数 12名 理事出席 18名 監事出席 3名	○審議事項 (1)令和3年度事業報告(案)の承認について (2)令和3年度決算報告(案)の承認について (3)連盟会費の改定(案)の議決について

		<p>(4)令和4年度第一次補正予算(案)の議決について</p> <p>(5)放課後児童支援員等処遇改善手当の支給に関する規程の一部改正の承認について</p> <p>(6)役員選任(案)の議決について</p> <p>すべて原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項</p> <p>(1) 連盟運営館施設長の異動について</p> <p>(2) 第3回 ICT 導入検討委員会について</p>
<p>第59回 理事会</p> <p>令和4年5月16日</p> <p>京都JAビル</p>	<p>理事総数 23名</p> <p>定足数 12名</p> <p>理事出席 18名</p> <p>監事出席 3名</p>	<p>○審議事項</p> <p>(1)令和3年度事業報告(案)の承認について</p> <p>(2)令和3年度決算報告(案)の承認について</p> <p>(3)連盟会費の改定(案)の議決について</p> <p>(6)役員選任(案)の議決について</p> <p>すべて原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項</p> <p>(4)令和4年度第一次補正予算(案)の議決について</p> <p>(5)放課後児童支援員等処遇改善手当の支給に関する規程の一部改正の承認について</p> <p>(1) 連盟運営館施設長の異動について</p> <p>(2) 第3回 ICT 導入検討委員会について</p>
<p>第60回 理事会</p> <p>令和4年7月15日</p> <p>京都テルサ</p>	<p>理事総数 23名</p> <p>定足数 12名</p> <p>理事出席 15名</p> <p>監事出席 2名</p>	<p>○審議事項</p> <p>(1)児童館・学童保育所業務 ICT 化事業者選定について</p> <p>(2)連盟会費改正(ICT 会費創設)(案)について</p> <p>(3)第二次補正予算(案)の承認について</p> <p>すべて原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項</p> <p>(1) 令和3年度健全育成子育て支援事業「親子でニコニコ笑顔いっぱい」について</p> <p>(2) 第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会について</p>
<p>第61回 理事会</p>	<p>理事総数 23名</p>	<p>○審議事項</p>

<p>令和4年9月22日 TKPガーデンシティ 京都タワーホテル</p>	<p>定足数 12名 理事出席 17名 監事出席 1名</p>	<p>(1)令和5年度京都市予算に対する要望書(案)について (2)公益社団法人京都市児童館学童連盟事務局・児童館職員就業規則の一部を改正する規則(案)について (3)放課後児童支援員等処遇改善手当の支給に関する規程の一部を改正する規程(案)について すべて原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項 (1)ICT事業進捗状況について (2)令和4年度健全育成子育て支援事業「親子ニコニコ笑顔いっぱい」の開催について (3)フードバンクの取組状況について (4)「とびだせ!やんちゃんねる2022」の開催について</p>
<p>第62回 理事会 令和5年1月27日 京都テルサ</p>	<p>理事総数 23名 定足数 12名 理事出席 16名 監事出席 2名</p>	<p>○審議事項 (1)令和4年度第三次補正予算(案)について 原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項 (1)児童館・学童保育所 業務ICT化事業の現状について 他7項目</p>
<p>第63回 理事会 令和5年3月13日 京都JAビル</p>	<p>理事総数 23名 定足数 12名 理事出席 17名 監事出席 2名</p>	<p>○審議事項 (1)令和5年度事業計画(案)について (2)令和5年度当初予算(案)について (3)定款等の一部改正について (4)給与規程等の一部改正について (5)新規入会者の承認について すべて原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項 (1) 令和5年度京都市児童館・学童クラブ関連予</p>

		(2) 第11回京都こども将棋交流大会について (3) 社会福祉法人美樹和会の脱退について
--	--	--

### 3 コンプライアンス研修会開催

職員の規範意識の向上と法人の健全な運営を推進するため、直営児童館8館の施設長、職員と事務局職員を対象に1月27日、京都テルサにおいて、京都市教育委員会 教育相談総合センター専門主事 毛利 豊和氏を講師に迎え、研修会を実施しました。